

**長岡市・和島村合併協議会  
第2回新市建設計画策定小委員会**

**議 事 録**

## 第2回新市建設計画策定小委員会会議録

### 1 会議を開催した日時及び場所

- ・日 時 平成17年1月13日(木) 午前11時
- ・場 所 長岡市役所第3委員会室

### 2 会議出席委員の氏名

豊口 協 鯉江 康正 二澤 和夫 大地 正幸  
佐々木貞夫 池田 彌 阿部 誠一

以上 7名

### 3 議題及び議事の要旨

別紙のとおり

## 長岡市・和島村合併協議会新市建設計画策定小委員会

事務局（北谷）

皆様、本日はお忙しいところお集まりをいただきまして、まことにありがとうございます。

ただいまより長岡市・和島村合併協議会第2回新市建設計画策定小委員会を開催させていただきます。

なお、本日の小委員会は委員全員の出席をいただいておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

また、合併協議会同様に公開で行われますので、ご発言の際はマイクをお使いくださるようお願いいたします。

それでは、資料の確認をお願いいたします。資料は3種類、資料の1、2、3でございます。よろしいでしょうか。

この後の議事進行につきましては、豊口委員長よりお願いいたします。

委員長（豊口 協）

おはようございます。それでは、これから議事に入らせていただきたいと思います。

次第の方の2番目に、新市建設計画についてという項目がございますので、最初に事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明いたします。事務局の竹見と申します。失礼ながら、座って説明をいたします。

最初に、建設計画書の方をお開きいただきますと、前回の小委員会では建設計画書、第1章、新市の概況から見た可能性ということで、7ページから15ページまでデータをまとめてご説明をいたしました。本日は、第1章の後半の部分、16ページからになりますけれども、新市の競争力という形で和島村さんのデータを整理させていただきまして、23ページまでをまとめてきましたので、ご説明をいたします。

それでは、資料1の方をごらんください。資料1の1ページ目でございますけれども、新市の競争力ということで、新しい発想力やチャンスを支援する力という形の中で、各地域の産業あるいは従業員の全県におけるシェアなど和島村のデータを入れまして、まとめております。

それから、2ページをごらんください。こちらは、人づくり・まちづくりから都市の魅力を高める力ということの中で、一番右の上の方にありますように、小売1店舗当たり販売額と小売吸引力、そしてそれをもとに年販売額掛ける全県におけるシェアという形で和島村さんのデータをまとめております。

続きまして、3ページをごらんください。こちらが地域の底力、米の生産力は地域ブランドを後押しする力ということで、米に関するデータをまとめています。3ページの上のグラフは、人口当たり米粗生産額ということで、和島村さんのデータを入れております。それから、和島村さんの米の量をプラス

しまして、新市でとれるお米についてもデータを整理しております。文章の方は、四角で6町村と、変わった部分につきましてくくっております。真ん中ほどになりますけれども、新市で収穫される米の量というのは、1人当たりの年間消費量で換算しますと、1年間に約86万人ということで、86万人という数字を変えております。

続きまして、4ページをごらんください。こちらが新市の暮らしやすさということで、汚水の処理施設の整備率をプラスしてまとめています。それから、刑法犯罪認知件数と検挙率、そして渋滞ポイント、それから交通事故件数ということでグラフを整理しております。

それから、5ページです。こちらは、新市の人を育てる力ということの中では、和島村さんのデータがなかったので、こちらはそのままということになります。

続きまして、6ページをごらんください。ここからは新市の交流する力ということで、グラフの方は観光入り込み客数とか、あるいは高速インターまでのアクセス時間、それから県外の観光入り込み客数などもこちらにデータをまとめております。それから、文章の方は、真ん中の方にインターチェンジのアクセス時間につきましては、約30分という数字を変えております。

続きまして、7ページをごらんください。こちらも新市の交流する力ということで。

「ないです」という声あり

事務局（竹見）

失礼しました。至急コピーをお持ちしたいと思います。ちょっと7ページ、8ページありますので。

委員長（豊口 協）

お待たせいたしました。それじゃ、始めさせていただきます。

事務局（竹見）

大変失礼をいたしました。続けてご説明をいたします。

7ページ、新市の交流する力ということで、新市内の通勤通学流動の状況、それから新市内の県内通勤通学流動の状況ということで、和島村さんを加えて整理をしております。7ページ、文章の方も、若干数字等も加えて変えております。

続きまして、8ページをごらんください。こちらが新市の交流する力、地域から、世界まで、新しい視点は新しい力を生むということで、新市の姉妹都市、友好都市、和島村さんのタヒチとの交流、こちらを加えております。文章の方も、左の中ほどです、「また、和島村では住民の活動から西タイアラブ連合村（タヒチ）との交流が生まれ、現在も続けられており」と、そういった文章を追記しております。

説明は以上です。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。最初の内容でございます新市建設計画について今説明を受けましたが、この内容でご質問等がありましたらお受けしたいと思いますけれども、5ページの、これは新市の人を育てる力の中で、データがなかったので、特につけ加えていないという説明だったんですけども、これはい

かがですか。特に問題はありますか。

委員（池田 彌）

配食サービス等あるのではないのでしょうか。

和島村企画観光課（八子）

ボランティア活動は、それぞれ実績はありますが、ボランティアを養成する講座というのは特にやっていないということです。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

ほかにご質問、ご意見がありましたらお願いしたいと思いますが。

委員（鯉江 康正）

1点よろしいですか。

委員長（豊口 協）

はい、どうぞ。

委員（鯉江 康正）

8ページの図の下から二つ目のところの資料の出典が長岡市国際交流協会と和島村役場調べになっているんですけど、これは和島村だけは別に集計しないとないということなんですか。今までのを見ると、全部長岡市国際交流協会の把握の資料になっているんですけど、わざわざなぜここに和島村が出てきているのかなというのが。

委員長（豊口 協）

いかがでしょうか。

コンサルタント（牛来）

6市町村でつくらせていただいたときに国際交流協会からのデータを使わせていただいたんですが、その後和島村さんのデータを調べる際に、6市町村で集めたときは6市町村だけを集めていたものから、時間的に調べるのに少しかかるということで、それで直接和島村さんの方にお聞きさせていただいたという経緯がございます。

委員長（豊口 協）

よろしいですか。

ほかにございませんか。

はい。

委員（二澤和夫）

タヒチですか、その交流の実態というのは、やはり8ページでございますけれども、タイアラブ連合村というんですか、ここと今でも続けられておられるということでございますが、実態としてはどんな活動をされているんですか。

和島村総務課（早川）

現在は、いわゆる小中学生を中心といたしまして、隔年で訪問する年と、それからいわゆる受け入れる年と、1年ごとに活動して地域の交流を図っております。

委員長（豊口 協）

ということです。よろしゅうございますか。

ほかに何かございませんか。よろしいですか。

「はい、結構です」という声あり

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

それでは、最初の新市建設計画についてはこれで終了させていただきます。

今まで何回も確認しておりますけれども、新市の将来構想、それから新市地域らしさの価値、これをベースに共有しながら新しいまちの姿を固めていくわけでありましてけれども、次に和島地域の夢というのが、構想の中にありますけれども、それについてどういう特性を生かしていくのかということこれから検討していくこととなります。

次第にありますように、和島地域の地域別整備・活動方針というものがまとめられておりますので、これを審議する予定でございます。

事務局の方から、ひとつ説明をお願いいたします。

事務局（竹見）

それでは、事務局からご説明をいたします。

きょうお持ちの新市将来構想を先に出していただきまして、51ページです。前回の小委員会でも地域の夢の検討手法と経過というものをご説明をいたしました。今回も51ページ、52ページ、これを踏襲しながら、和島地域の夢をつくってまいりました。最終的には将来構想の53ページから、また地域別に書いてありますけれども、その次に和島村さんの地域の夢が載るといふふうな形でお考えいただきたいと思っております。

それから、もう一つ、建設計画でございますけれども、建設計画の、後でまたご説明しますが、その中に概要という形でまとめたものが載ります。

それでは、資料2の方をごらんください。資料2は、和島地域の夢の検討の流れについてまとめてございます。策定プロセスについて将来構想を踏襲したということで、検討内容につきましては地域資源、素材などを残らず上げる、そしてほかの地域の資源を知りながら、地域らしさ価値実現に向けた和島村の地域の役割を考えていくということです。その下が検討の流れということで、大きく四つのステップがあります。途中6市町村企画総計、それから合併担当ワーキングメンバーのご意見も伺いながら、和島村さんと、それから事務局、コンサルタントと一緒にやってまいりました。

続きまして、資料3をごらんください。資料3は、最終的にこれらの将来構想のように整理されてい

きます。1枚目が和島地域はこんなところということで、和島地域の成り立ちなどをまとめております。

それから、1枚おめくりいただきますと、2枚目、3枚目が実際の和島村さんの地域資源をまとめた中で実現すべき和島の姿、地域別の整備活動方針と展開をまとめてあります。それぞれ地域らしさ価値ごとにまとめています。

それから、最後のページになりますけれども、もっと詳しく地域の力ということで、和島村さんの地域の力を整理しております。

それでは、もう一度2枚目に戻っていただきたいと思います。地域の夢につきましては、各地域の地域資源と特色を生かして活動を継続していったときに、達成できる可能性のある地域の夢の姿を、実現に向けた活動してまとめています。各地域がどういう役割を担っていくのかを明確にしております。それによって、住民の方々が地域においてどういう活動をしていったらよいかのわかるような活動の方向性を示しているということです。

こちらの整理されたところの見方なんですけど、上の方が独創企業が生まれ育つ都市ですけども、右上の方に、水色の部分、活用したい地域資源と。地域固有の資源で地域らしさ価値を高めるためのもので、和島村さんの強みと内容を整理してあります。

それから、新市全体のありたい姿として、黄緑になりますけど、独創企業が生まれ育つ都市、それを高める方向性を和島村においてまとめてきたと。それを合わせて、実現すべき和島の姿としてこちらに書いてありますような形で、いつか達成できる可能性のある地域の夢をまとめた。そして、右下にありますけど、実現していくための活動・展開ということで、住民と行政が一体となって取り組んでいく活動として、見極める、発信する、育てるの観点で整理をされています。

それでは、資料3につきましては、和島村さんのご担当からご説明をいただきます。よろしくお願いいたします。

和島村企画観光課（八子）

和島村の企画観光課、八子といたします。座って説明させていただきます。

このたび関係者の皆様の大変な熱意あるご指導とご協力いただきまして、短期間ではございましたが、数回にわたるワークショップ形式での意見交換と各種共同作業をさせていただきまして、新市における和島の今後のあるべき姿等につきまして、今回取りまとめさせていただくことができました。ここに厚くお礼申し上げます。

地元ということで、これから説明させていただきます。概要につきましては、そこに書いてある資料1ページ目をご参考いただいて、大体そんなイメージになっておりますが、ちょっと補足的な説明をさせていただく中で、和島村、規模は非常に小さい町村でございます。地域的な特性としましては、長岡文化圏とでもいいましょうか、長岡市に影響を受けておりますし、柏崎文化圏と呼んだらいいのか、柏崎方面からの交流もございます。それと、分水方面とのちょうど合流点といたしますか、そんなところで海岸沿いに位置している町村であるという点がちょっと立地的にも特色がある、歴史の中でもそれぞれ

とうまく調和しながら独自の風土を残してきたという地域だと思っております。

和島人氣質とでもいいでしょうか、性格的に非常に勤労意欲の高い、あと質素、素朴、あと人情に厚いと、ただしなかなか引っ込み思案といいますが、自己表現が下手な部分もございしますが、そんな気質が今に引き継がれている地域であるのではないかなというふうに考えておりますし、そんな実例の中では晩年の良寛さんを木村家を初めとする敬慕した人たちが温かく迎え入れた事例とか、あと村の出身者であります久須美親子という2人の親子が一生懸命越後線の鉄道、あと弥彦線の鉄道敷設に私財をなげうって奉仕してきたと。その方々は、学校の、島田小学校という学区だったんですが、建築にも私財を投じて子弟教育もなされてきたという先人の努力もあります。そういう中で、そういう精神風土がこれからの和島の特殊性であるのではないのでしょうかというワーキングの中でいろいろご指導いただいたり、気づかせていただいたということで、2ページ目以降のそれぞれのブランディング価値というふうになげさせていただいております。

時間もありますので、順番に一つずつ説明させていただきますが、まず一つ目の独創企業が生まれ育つ都市ということにつきましては、和島の今ほど言いました人間性が非常に財産ではないでしょうかという、そこに着目していただきまして、個々人の持っているそういう素養、そういうものを最大限に活用して、そこから独創的な事業にチャレンジしていける、そういう人間の養成に取り組んでいったらどうでしょうかというところでまとめさせていただきました。

地域の資源につきましては、ちょっと詳しく説明したいと思うんですが、道の駅でのチャレンジということで、地元で生まれ育つNPO法人の活動ということで、昨年4月に道の駅、良寛の里美術館を中心にしたものは平成7年、8年に既に指定いただいて、道の駅として活動してきたんですけども、さらにエリアを拡大していただきまして、国土交通省でつくっていただいた大きな駐車場と私どもの地域のための施設の一体化の施設が昨年4月に供用開始になりまして、その管理運営を住民参加型システムを何とか導入してできないだろうかという検討をオープン前の年から一生懸命地域づくりに熱意のある住民の皆さんといろいろな協議をしてきた中で、今までばらばらだった皆さんの情熱が一つに結集しまして、NPO法人の立ち上げがなされまして、3月議会で自治法改正に伴う新しい制度でございます指定管理者制度という制度を、この間試行なんでございますが、お願いしまして、試行錯誤で開始させてもらっているということで、当初心配な部分もあったんですが、非常に現場、NPOのメンバーの構成としましては、一流の企業で第一線で活躍してきて、引退された、地元のために、今まで寝るところにしか帰ってこなかったところで、ふるさとに恩返ししたいというようなOB組、それと昔から地元で農業等を汗水垂らしてやってきた農民組とでも申しませうか、それとあといつも家庭では縁の下の力持ちとしてやってきた主婦組、あと職人、林業や大工さん等のメンバーですけども、職人技を持っている方々の職人組とでも呼ぶようなそういう人たちがみんな一つの核になって運営していただいております。そういうことで、今新しい活動が起こっているという事例で、これから伸びる財産ではないかなと思っております。



それと、続きまして、良寛さんにつきましてはもう関係町村多数あるわけなんです、和島村の特殊性ということで私どもが感じておりますのが、長い人生の中で一番最後、地元もあったわけですが、兄弟、その他縁者があった中で、和島村という地を最期の自分の終えんの地、安住の地として選ばれた、その母体といいますか基盤としては、やはり自分を敬慕してくれる人たちが多数いたということもありますけども、最終的には住民の精神風土が非常に心地よい環境も作用したのではないかなと。期間はほんの短いんですが、その中で貞心尼と出会う、非常に長い人生の中での一つのまた出会いの地であったのではないかと。そういう意味では、良寛の関係町村多数ありますが、最後眠っておられる菩提寺もございまして、関係縁者で木村家も現存して、今一生懸命良寛についての努力もなされておる、そういう資源がございまして、これらも一つの大切な資源ではないかなということで考えております。

菊盛美術館寄贈というふうに書いておりますが、これ良寛さんと多分似たような現代版の事例だと思ってちょっと上げさせてもらいましたが、菊盛さんも私どもと全く縁もゆかりもない方でございます。新潟県出身で一代で財をなされて、非常に口ダンや高村光太郎、その他の1級品の収集をなされた方なんです、晩年自分の財産といいますか、芸術品を眠らせておくのはもったいないということで、心温まる、理解してくれるところでちょっと公開なり寄贈したいという申し出といいますか、そういうお気持ちの中で新潟県内いろいろ自分の足で歩かれたそうなんです、この和島村が非常に温かく、作品を大事にしてくれる、自分としてはそういう結論に至ったということで、美術館建物自体から中の収蔵品すべて本人の私財で寄贈していただきました。余りメジャーではありませんが、非常に高貴な作品の鑑賞ができる資源を持っているということで、これも一つの私どもの特異な資源として上げさせていただきます。

それと、ものづくり集団の芽生えということで上げさせてもらいましたが、これは今和島はこれからどんどん変わる地域だなと、今変わりのちょっと芽生えが出てきたかなという事例になりますが、手づくりの木工家が長年こつこつやってきたのが今花開きつつあると。注文家具をつくっている作家の方でございますが、地元の出身で、いったん出られまして、長岡市に住所はあるんですが、実家の方で工房を開かれてやっておられる方とか、あと竹細工等の昔からやっておられる職人さんたち、それが今まで別々で全く表に、地元でも知らなかった人がいた中で、今回道の駅をオープンをきっかけとした中で、そういう中で資源の発掘が出てきて、連携が少しずつ広まってきておる事例ということでご紹介させていただきます。

あと、食品加工につきましても、これおかあちゃん方がつくっておる漬物等、これはただ売るものをつくるというんじゃなくて、非常に人に喜んでもらえる、それがうれしいということで、きちんと保健所、いろんなところの許可をとりながら、正規に事業として開始される個人農家が出てきたという新しい、非常に私ども魅力を感じているこれからの動きではないかなというふうに考えております。

酪農につきましては、ガンジー牛乳という牛乳があるんですが、イギリスのガンジー島に生息する牛のことなんだそうですが、ホルスタイン種で乳牛なんだそうですが、非常にお乳の量が少なくて採

算に合わない牛なんだそうですが、その乳については貴族の牛乳、ゴールデンミルクと呼ばれるというように非常に高貴なものなんだそうですが、これは何年か前から取り組んでおられたんですが、地元でも余り知られていなかった。私どもも買おうとすると、長岡駅のセゾンの中に売っておったというのを初めて最近になって知ったというような、こういうものがあつた。それが今道の駅で本当の地元のオリジナルということで、ネットワークづくりと地元のブランドとして今やっております。

あと、民芸品等おじいちゃん、おばあちゃんがつくつた、金にしようとかそういうんじゃなくて、本当に手づくりのものを今道の駅で取り扱わせてもらっておりまして、それらもこれは今度は生きがいと、そういう郷愁を誘うものがお客さんに受けているというようなことで、ちょっと芽生え的な小さな事例でございますが、それらを資源としまして、大きな企業を育てるというよりも、和島、そこに実現すべき姿ということで、そういう個々の独創精神を支えるといいますか、そういうことで、それをネットワーク化したり、そういう人間を育てていくことで、新市の中で一つの役割分担ができないのかなという、そういう意味合いでちょっと活動展開を考えさせていただきました。

時間の都合もありますので、進めさせていただいて、質問等あればまた後で説明させていただきます。

次、元気に満ちた米産地につきまして、これにつきましても大きなこれだというのはないんですが、基本的には昔からの活動、それと個々の活動が資源ではないかなということで。まず、和島の立地から、地形からいいまして、非常に平野部にある肥沃な農地といいますか、それらとその周辺を取り巻く丘陵地にある自然に富んだ山間地、いわゆる里山の風景等を利用した自然条件の中でお米を主としてずっとつくってきた村でございます。非常においしいという評判はずっとあるんですけども、特にブランドとしてはなっていないんですが、今度少しずつでも村のネーミングつけながら、おいしいという評判の中で消費拡大できればなということで資源として上げさせていただきました。

農地の方も基盤整備等大々的に進めさせてもらっておりますし、また周辺部は集落営農システムづくり等の取り組みを行って、特色ある農産物の生産ができないかという形で新しく活動ができていけばなというふうに考えておりますし、食材についても今までは自家消費が主だったんでございますが、やっぱり喜んでもらえるというのが非常に生きがいにつながるということで、今食品加工等も取り組みが始まっております。先ほど言った個人農家の取り組み、これが農産物に関してもこれから発展する可能性があるのではないかなと。

酒につきましては、酒蔵が2軒ございます。幻の酒米復活、亀の尾という手に入らなかった栽培の非常に難しい酒米を何年もかけて量をふやされて、それでそれを支えた農民の組織があつて、それで亀の翁という非常に人気のあるお酒ができ上がってきた資源、それともう一つの酒蔵では、やはり地元のコシヒカリを無農薬等で非常に厳選されたもので、地元のお酒ということで、それも非常に高い評価を受けて、酒については二つの酒蔵が、行政とは全く別の本当に自己努力といいますか、の中で成功されている例だと思っておりますが、地元としても大事な資源として考えております。

あと、販売活動については先ほど道の駅を紹介しましたし、あと村の方では特産品開発ということで、

具体的な事例としてはジネンジョという、長芋等と誤解されるんですが、ジネンジョという、これ行政の方と住民と最初一体になって、平成七、八年ごろから1人、2人の農家から初めて、今は今まで新潟ふるさと村ですか、あそこが唯一の販売拠点といいますか、あそこまで出張ってシーズン中大々的に売っていたんですが、今回この秋、地元で道の駅で売らせていただいたら非常に好評で、今までつくってもなかなか希望する量が売れるというのがなかったのが売り切れ状態というような形で、これからどんどんそういう活動を続けていけば、また一つの形ができ上がってくるのかなということで、そういう事例がある中で、和島の皆さんの取り組み、総じまして、無理してこれを大々的に企業として成功させようというのではないんですけど、自然体で自分たちも生きがいを感じながら、人から喜んでもらって、リピーターになったり、そういう活動の中から農林業の生産について拡大していこうという取り組みを今後も続けていこうというのが米産地のところでございます。

次、安住都市のところにつきましては、やはり先ほど言いました和島の特色があってないようなエリアでございますが、やっぱり人が素朴で、非常に住みやすい地域ではないかなということが財産ではないかなということで、資源としましては伝統行事であります8月16日に六夜祭という行事がございますし、弓踊りという保存活動をコミュニティーでずっと長く続けてもらっておりますし、また良寛さんが住まれた同じ集落なんでございますが、六夜祭もその集落でございますし、そこにまたそれらを支える大体同年代で結成された「連中」という一部の地域の呼称でございますが、そういう仲間のグループが幾つか残って、支え合ってそういう伝統を支えているという一つの特殊性がございました。

それと、安住都市ということなんで、教育の方にもちょっと触れさせていただきまして、和島の幼児教育、保育につきまして、15年ほど前から幼保一元化の教育ができないもんかということで施設整備させていただきまして、文科省と厚生労働省では管轄違いますし、制度自体が違う、費用も全く違う制度なんでございますが、人事管理あるいは教育内容等もなるべく連携とれないか、相乗効果が上げられないかという取り組みはもう既に15年ほど前からやっております。最近になりまして、構造改革特区の先進事例ということで、九州の方で省庁の枠を取っ払って何とかいい教育ができないかという申請を上げてやっている事例もあるというふうに聞いておりますが、もし私どもの方でもそういう支障があるような壁があれば、今後これを進める中で特区というのもまた一つの手かなとは思いますが、そんな形で続けさせていただいているということです。

次のポチでございますが、教育の里づくり。これは、今のいろんな母体、和島の風土がある中で、現村長になりまして学校を統合しなくちゃいけないという時期に来て、十何年前から取り組んでいたんですが、なかなか用地の選定も含めまして、実を結ばなかったという中で、住民の方々から今回ご理解いただく中で、ただの箱物をつくるのではなくて、やっぱり住みよい、良寛さんを迎え入れたような風土づくりに貢献するような施設と、あと新たに小学校、その他いろんな犯罪が起きておりますので、そういうのも防止できるような構想を立てられないかと。それとあと、お年寄り、介護保険になってからもそうなんですが、施設へ入って、もう親元離れて、ただ施設へ入れて終わりというような終わり方でな

くて、最後は自分で生まれ育ったところで輝いて、人に見守られながら、惜しまれながら、最後輝きを、その姿を見せながら子供たちの教育にも相乗効果を上げていていただきたいということで、福祉と教育を何とか、それに住民を巻き込んで一つの施設整備等の住民運動ができないかということで今取り組んでおる事業がございます。まだ計画、検討中でございますので、これにつきましては今後の推移を見守りながら整備していくことになると思いますが、そういう活動で今事業をちょっと手をつけさせていただいております。

それと、ラビットファームの活動ということで、これはひとつある小学校の近くの農地を持っておられる周辺農民なり住民の方々を中心に、花好きの人、自然の大好きな人たちが学校の教育や、里山整備や、あるいは野菜づくりやということで活動をなされているものでございます。きょうの資料のもっと詳しく地域の力の一番最後のところで活動の風景の写真をちょっとつけさせていただきますが、そういうことで楽しんでもらっております。

そういったものをセットにしなが、学校の方としては、すずかけ農場とか、裏山の「ウサギガオカ」と読みますが、非常に広大な森林の中でPTA等の森林整備を通じまして、いろんな自然体験学習、キャンプ、あるいはアスレチック等の活動の場面をPTAと一緒にやって、そういうのも一つの財産ではないかなというふうに考えております。

あと、良寛につきましては、先ほど言いましたように、ずっと続くそういう住民性の中で、そういう気持ちを失わずに、住民のホスピタリティーといいますか、もてなす心を維持していけば安住の地につながるのではないかなということで考えております。

あと、工房ゆきわり、これ知的障害者の活動でございますが、養護学校を終わられた後の子供たちの行き場がないということで、保護者の方が何とか自分たちの子供、社会に溶け込ませてやりたいということで一生懸命立ち上げられた会でございます、これが平成何年でしょうか、立ち上げて、今は非常にそこですぐ受け入れを行っておられるということで、ちょっと福祉の方の事例でございますが、上げさせていただきました。

そういうことで、整備の活動方針としましては良寛安住の心を守り伝える平和の里、いわゆる気持ちが一番、メンタルなものでございますが、そういうものが癒される里をつくっていきたいということで発展する方向を考えていったらどうかなというふうに考えております。

最後になりますが、和らぎ交流都市でございますが、これにつきましてもやはり交流ですので、人と人との心ということで、それを大事にしていこうということでございます。

良寛については説明させていただきましたが、一つエピソード的なところで、良寛と現代人ということで、スイスから良寛を慕いてというちょっと事例上げておきましたが、スイスの私どもと同じぐらいの年代、四十幾つの精神科医のといいますが、学校でセラピストをやっておられる方なんだそうでございますが、フランスで禅に出会い、そして良寛さんを知り、良寛さんに一目会いたくて和島村の小島谷駅という駅に単身降りられまして、それで宿がないということで役場においでになって、いろいろ事

情を聞いたら、最初は浮浪者みたいな方だったんで、浮浪者対策みたいな呼び出しがかかったんですが、良寛さんに会いたくてスイスから来ましたということで、ああ、海を超えて、自分の金で良寛さんの心に一目会いたくて、少しでも近い駅ということで和島に何か降りられたんだそうなんですが、その方との交流が始まりまして、いろいろ2度ほど和島にはおいでになって、それで2度目の交流のときには木村さんのうちへご訪問する時間がとれましたので、交流をしていただきまして、良寛さんの書をすらすら読まれるということに木村さんも非常に感動なされまして、木村さんのうちとも今ご交流が続いておりますし、今回の地震に際してはスイスでも心配なされて、報道されたそうで、連絡が参っております。そんな形で、地元で思っている以上に、世界にも良寛さんの心というものが非常にまだ生きているんだなというか、それを慕っている人がいるんだなということで、地元でも気づかされた事例でございます。

あと、タヒチとの交流につきましては、これも民間から生まれた交流でございます、先ほどちょっと質問ありましたが。個人の方々がプライベートで子供を預かったりしているのが、どんどん日本に来たいと。日本に来たいけれども、大都会、東京みたいなところは余り来たくないんだけど、タヒチという国は自由奔放な本当に素朴な島でございますので、そういうところで日本の文化を学びたいという個人交流の規模がどんどん大きくなりまして、それで姉妹都市提携まで発展したということで、もう平成元年ごろから準備が始まりまして、それで現在に至っている事業でございます。

そういうことで、ちょっと走り走りでもございましたが、そういう個人の交流を大事にして、肩ひじ張らない自然体の交流地域の中で地元としては何をすべきか、やはりもてなす心なり、あるいは一回きりの出会いであっても最大限のもてなす心で接したいということで、NPOのスタッフもそうですが、非常にそれに気を配りながら、喜んでもらいながら今事業展開をやっているということです。ちょっと長くなりましたが、以上で説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。非常に詳しくご説明いただきまして、委員の方々も十分ご理解いただけたと思います。

ただいまの説明を含めて、何かご質問がありましたらお受けしたいと思いますが、よろしいですか。

発言する人なし

委員長（豊口 協）

それでは、特にご質問がなければ次の意見交換に入りたいと思いますが、この内容につきまして事務局の方から説明をお願いします。

事務局（竹見）

その前に、今ご説明いただいた和島地域の地域別整備・活動方針につきましては、将来構想、それから建設計画の方にまとめていくということです。

それから、地域の資源につきましては、次回もう少し詳しいものとして、説明文書をちょっとつけ加

えさせていただきます。

今和島村のご担当からご説明をいただきましたけれども、こういった地域別の活動方針から新市がどういうふうなまちづくりをしていけるのか、委員の皆様からご意見あるいはお考えをお聞きしたいと思います。実現していくための活動方針、それから活動展開がこちらに示されておりますので、その辺を踏まえながらご意見をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

委員長（豊口 協）

わかりました。

今事務局から説明ありましたように、和島地域の整備、活動方針、新市のまちづくりというものをベースにして、さらにつけ加えていきたいようなご意見がありましたら、ぜひご発言いただきたいと思いますが。

はい、お願いします。

委員（阿部誠一）

この地域の夢の中に、農業と林業の両立だとか、農林業を営む心のあり方を新長岡にアピールしていくとか、自然体験農林業生産地域という記述があって、農業だけではなくて林業も盛んだという趣旨の言葉が入っておりますし、たしか和島さんも大分木を植えられて、現在人工林が多い地域なんですけども、そういう状況を踏まえれば、ここの活用したい地域資源という中に杉材の活用みたいな記述が活用したい地域資源の中に余らないんですね。若干関係あるとすれば若手木工芸・竹工芸職人の技といったようなところにしかそういうものがちょっとあらわれていない。そういう現在もう伐採期に来ておる人工林が大分あるだろうと思いますので、そういうものが活用したい地域資源の中に何か記述されないものでしょうかという質問をちょっとしたいと思っていますけども。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

特に林業に関してのご質問ですが、どなたかお答えをいただけますでしょうか。

はい。

和島村企画観光課（八子）

おっしゃられるように、三島林業地という呼称で呼ばれております与板町さん、三島町さん、和島村、出雲崎の境界の丘陵が杉の林業地として県内で有数の林業地帯だということで、今林業が非常に苦況に立たされておりますが、その活用を何とかしていかなければいけない。これは、大きなまた振興の柱だと思います。

今和島村では森林組合という一つ基地がございますので、広域の森林組合の基地がございますので、それらと連携とりながら、ぜひやっていかなければいけない。今時点、ちょっとどういう方向性で具体的に取り組みがあるかという、そこがちょっと説明できませんでしたので、次回内容を精査して、またもし必要あれば関係者と相談させていただきたいと思います。

以上です。

委員長（豊口 協）

なかなか日本全体が今杉材の活用には壁にぶつかっているわけでありまして、新しい一つの活用の方法がもしここから芽生えれば、こんなすばらしいことはないだろうという気がいたします。

ほかにご意見ございますか。

はい、お願いいたします。

委員（池田 彌）

今の件に関する事でございますが、実は本当にこの杉材の見直しでございますが、非常に全国的にも、また県の支援などもいただきながら、当地域の森林組合、これが和島を中心にして、出雲崎さん、それから寺泊さん、和島、この3カ町村で構成している森林組合が現にももちろんあるわけでございますけれども、なかなかその中の運営ということになりますと非常に厳しいものがあることは確かでございます。しかし、私もその理事になっておりますので、各先進地の非常に活用されておるようなところも年に2回ほどいつも視察させていただいておりますが、もうこの森林組合も非常に苦しい中の経営でありますけれども、地域としては林道の整備とか、それから森林運営でも間伐がなかなかうまくいかないというような手不足の面もありますけれども、非常に今後自然環境などとの競合もありますので、何としてもこの緑、森林、特に守っていきたいということの根強さは、和島地域でも組合のほかにも個人で形成されておる同士などもございますので、そういうものをやはり育成していく、この辺も非常に我々の責任だと常に感じてはおります。そんなところで、やはり地元の材料、これを大いに個々のところまで提供したいと、こんな意欲であるわけでございますので、ぜひできることであれば、そういう文言的なものをひとつどっかに入れていただければ幸いです、こんなふうに思っております。

あと、全体的に私感じておることになれば、長岡さんとの第1回目の法定協議会のときも言われておりますように、資源を共存共栄していこうということの話をいただいておりますことにつきましては非常に喜んでおります。ぜひ和島地域のこのうたわれておりますような人間性を中心にして酌んでいただきながら、ひとつ共存共栄という頭文字を何とか今後も大事な中心としてお願いして、我々議会でもそんなことをついこの間話をし合ったわけでございます。ぜひひとつよろしく願いいたしとうございます。

委員長（豊口 協）

どうもありがとうございました。

この杉材の活用というのは、これは今や社会的な非常に重要なプロジェクトになっておりますけれども、日本の杉というのは、植林された杉というのは、実は天然の杉と全く性質が違いますね。白太が多くてやわらかくて、なかなか活用するのは難しいという、そういう問題を含んでおります。それで、秋田の能代の天杉なんかの場合には、これは板柁のきれいな目が入りまして、非常にかたいんです。そうい

う点で、素材そのものがやっぱり違うということで、その辺を科学的に少し分析をして、新しい活用方法を考えていくと。これは、もう総合的には市の新しいプロジェクトとして私は取り上げてもいいんじゃないかという気がいたしております。どうもありがとうございました。

ほかにございませんか。

はい。

委員（鯉江康正）

きょうの意見というか、この資料の中でちょっと感じたのは、やっぱり安全、安心のまち、スローライフとか、高齢者対策とか、そういうところをもう少しクローズアップしてもいいのかなと、もっと自慢してもいいのかなという感じがします。というのは、新長岡市を考えたときに、旧長岡市は基本的には製造業で産業のまちだと言われているわけです。そういう中であって、やはり安らぎを売るところがここなんだという売り込みを僕はもっとしてもいいんじゃないかなと、ちょっと遠慮されているのかなという感じを受けました。

それと、これは次回の話になるのかもしれませんが、建設計画の中に、というかきょうの資料の説明にもあるんですが、やはりインターへのアクセスが非常にこの地域としては悪い。新しい長岡市になったときには悪いというのと、もう一つはきょうの最初の資料の7ページのところで、和島村の通勤通学の状況が基本的には和島村内でほとんどクローズしていると。これ長岡を例外にすればほかの地域では非常に珍しいことで、これは私が知識がないと言われちゃえばそれまでなんですが、どうも116号と8号が平行していて、全然使う人が違うのかなと。だから、そこをやっぱりどっか一本うまく結ぶような、これこんなことを言うと阿部委員に怒られちゃうかもしれませんが、何かそういう事業があれば、どっかボトルネックが多分あると思うんで、そこだけでもうまく整備すればかなり違ってくるんじゃないかなという感じがしますんで、その辺は建設計画を検討するときに、ぜひひとつやっぱり地域の一体化ということから考えれば、最初にちょっとお話がありましたけど、どうも柏崎との結びつきが、これは明らかに116号の話でして、ですからそういうところをちょっとほかの地域とは若干様子が違うのかなという感じを受けましたので、ぜひやっぱりひとつ検討の土台には乗せていただきたいというふうに思います。

委員長（豊口 協）

ありがとうございました。

いろいろご意見をいただいております、きょういただいた意見を含めて、事務局の方で内容については素案策定のためにこれを検討していくということになっておりますので、次回の素案の場合にはそういったご意見が中に含まれてくるだろうというふうに考えております。

ほかにご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

発言する人なし

委員長（豊口 協）



それでは、長時間ありがとうございました。

本日予定されております内容につきましては、ここで一応終了させていただきたいと思います。

事務局にお返しいたしますので、よろしく。

事務局（高橋）

今後のスケジュールでございますけれども、きょういただきましたご意見を踏まえて、次回、1月の24日月曜日でございますが、この同じ第3委員会室、夕方の6時からでございますが、3回目の小委員会を開催したいというふうに考えております。なお、その際には建設計画の中身の部分について今度ご提案させていただき予定になっておりまして、その小委員会での結果を踏まえて、1月の31日に予定されております協議会に建設計画の案という形で報告をしたいというふうに考えております。そして、協議会を経た上で県に事前協議を上げたいと、このように考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

（散会 午後12時15分）